

会員の ひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

新潟の思い出

苫小牧市医師会
王子総合病院

くろだ ひろゆき
黒田 裕行

年男ということで原稿の依頼をいただきました。年末に机の上を整理していたら、原稿の締め切りがとうに過ぎたのを知りました。何を書いたらと考えておりましたら、小学生の夏休みの宿題のようなタイトルとなりました。

私は1991年に大学を卒業してから、そのほとんどを北海道におもに血液内科医として勤務しておりますが、2度ほど道外で働いております。最初は20代の時で、愛知県がんセンターで研究しておりました。その際に一緒に働いた親友に誘われ、50代で新潟県立新発田病院に赴任しました。新潟県の人口は北海道の半分くらいですが、南北に長く広大なところで、実働部隊の血液内科医は30人弱と極めて少数です。そのうち2/3は新潟市で勤務、残りの1/3が地域の基幹病院に分散しております。絶滅危惧種のような新潟県の血液内科医ですが、チームワークはよく、患者さんの紹介の件では本当に助けられました。

新潟県では新潟大学出身者がほとんどで、よく言えば統率されて仲がよく、悪く言えば排他的な印象があります。ただ、それについてはどこの地方でも同様で、仲間として認められると非常によくしてくれる土地柄でした。科の宴会は時々研修医また医学生の方とも出かけましたが、まず酒が強い人が多いです。宴会の最初はビールや焼酎など1杯飲んで、次からは個々におちょこを配って日本酒を嗜む場面もあり、私も完全に負けて泥酔していました。

新潟県の冬は大雪を思い描く方も多のですが、新潟市や新発田市は佐渡島に雪が妨げられて、意外に雪は多くない印象です。その他の山沿いは言わずと知れた豪雪地帯です。北海道のようなパウダースノーではなく、湿ったずっしり重たい積雪で、雪か

きの際は結構苦勞しました。また北海道より10℃位は気温が高いので、6月くらいから30℃を超える日もあり、フェーン現象もあるため10月くらいまで暑くて大変でした。新潟県の夏は、映画で見るような正に日本の夏といったところでしょうか。彌彦神社、村上市の鮭の博物館、月岡温泉などいろいろと出かけて、北海道とは異なる文化や気候に触れることができました。

2024年から北海道へ戻り、慣れた気候で過ごしやすく、ススキノの雑踏など懐かしく感じます。住み慣れた北海道はとてもいいところですが、新潟県を離れてみると地域の人たちの温かさを思い出します。北海道出身の先生方の中でも国内外で勤務された方もたくさんおられると思います。道外での他流試合や異なる生活は、視野を広めることになり個人的には貴重な体験だったと感じます。

新年を迎えるにあたり自身の熱い抱負も思いつきもしませんが、いつも感謝の念を大切に、マイペースでやっていきたいと思います。本年が皆さまにとって良い年になりますように。



彌彦神社にて参拝



瀬波温泉の夕日、新潟の夏、日本の夏